

21.06.09-15

初夏の蝶(つじ)

緊急事態宣言下、アポイのヒメチャマダラセセリの保護活動もあり、
本格的な蝶のシーズンも到来する中、北海道に渡った。

厚真

6/09

新千歳到午前中、昼前厚真到着。
前回追跡できたキマダラモドキ幼虫を探すも発見できず。
毎年のことだが、この時期は緑が濃くなり、食べている？とおぼしきイネ科・カヤツリグサ科が豊富で、食痕を頼りに探すも、できなかった。(途中から未探索箇所&前回食べていたイネ科中心に探してみた)



キマダラセセリを探しているとき、ヘリグロチャバナセセリ幼虫を発見できた。(巣)



↑巣を開いてみると幼虫が。

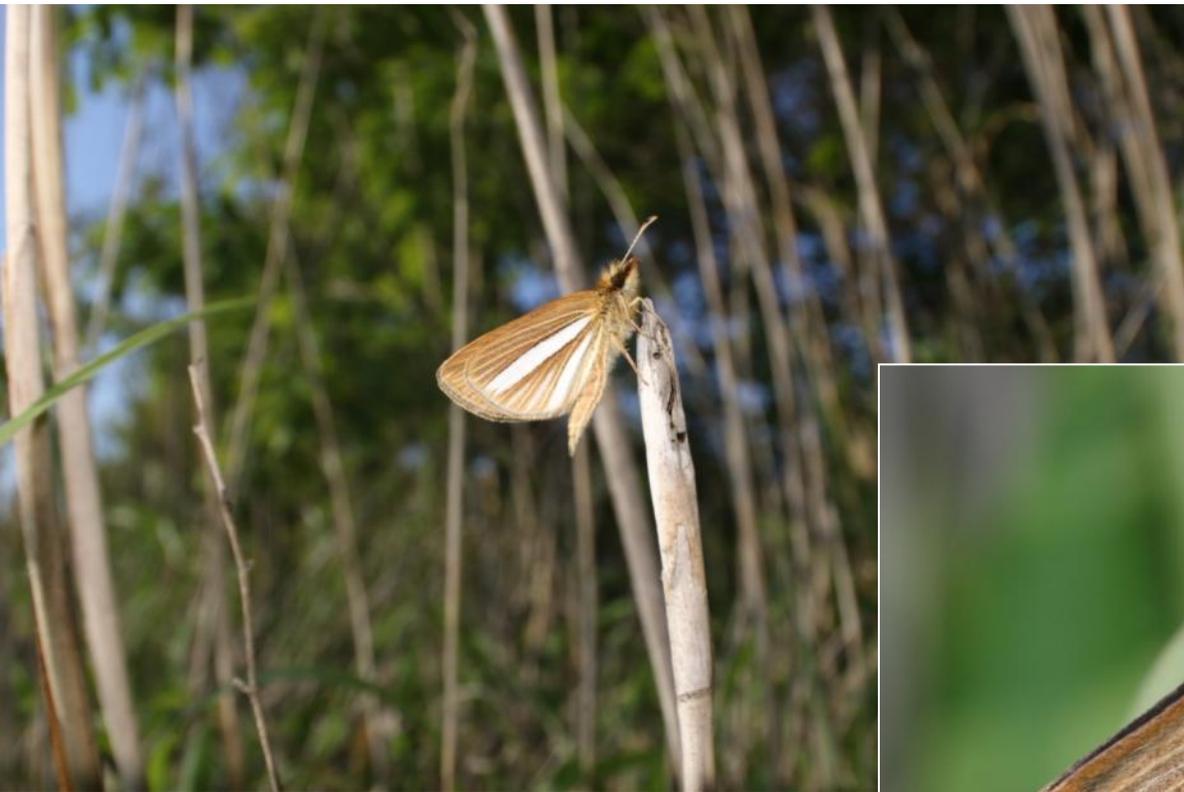
←近くに複数の幼虫が見つかった。→→→→
成虫は枯葉に卵を複数産卵するので、孵化した幼虫たちが近くに見つかるようだ。



厚真

6/09

キマモドP出発！と思いきや、黒い小さな蝶・・・。
ギンイチモンジセセリ！久しぶりの成虫。
17:30過ぎまで一時間くらい撮影してしまった。



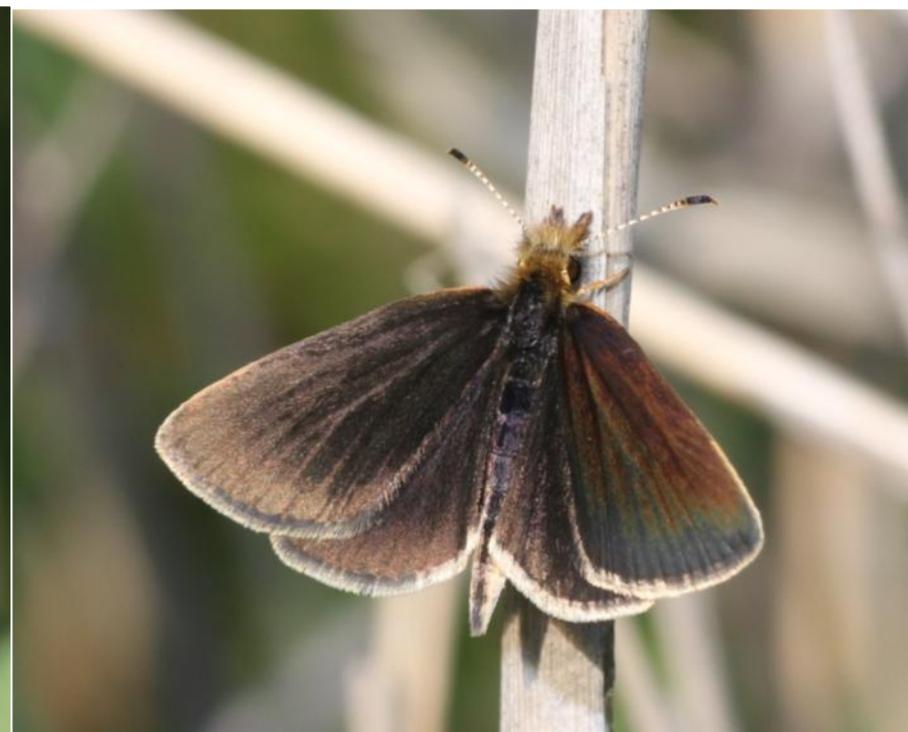
↑イチモンジがはっきりしているが、
ニモンジにも見えなくはない。

発生初期か？とても美しい個体。



↑ピントは甘いが、下からのアングルが迫力。

↓翅を開くとビロードのような美しさ。



厚沢部

6/10

ジャノメを観察後、夜に走ったが途中で疲れてしまい、壮瞥の道の駅で車中泊。
9時過ぎに厚沢部着。あららら！水がない。



↑①常に水が滞留のポイント。初めて乾燥していた。水で困まれた範囲を探せば、蛹が見つかる？と考えていたが、難しそう…。
一帯を探してみたが蛹は発見できなかった。

②・・・と、開いた車のドアから入った蝶・・・。
「ヒメジャノメ！しかも♀」
ドアを全部閉め、乗り込んで撮影。
（「北海道の蝶」最早記録より2日早い）
この後、野外でも2頭飛んだが撮影できなかった・・・。

まず撮影→→→
指乗せに挑戦↓



夷王山

6/10

前回のミヤマカラスシジミ幼虫がどうなっているか？
心配しながらだったが、今回も確認することができた！



③枝の下から探してみた。→→

④この写真には4頭写っている
→→→→

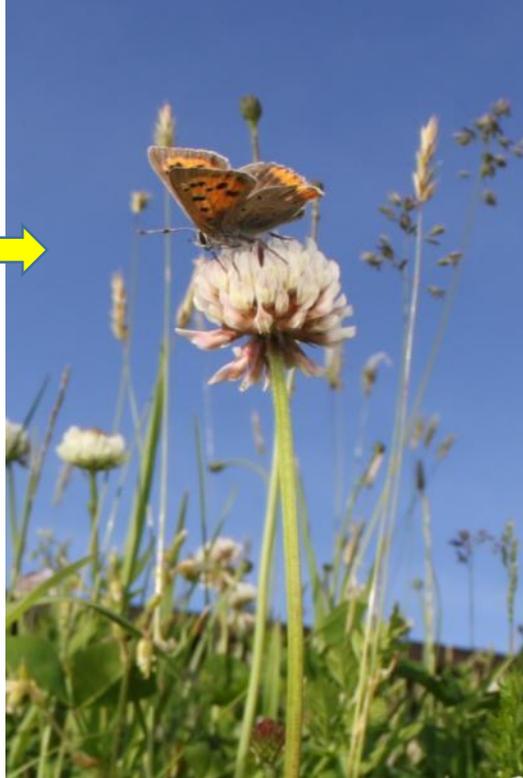
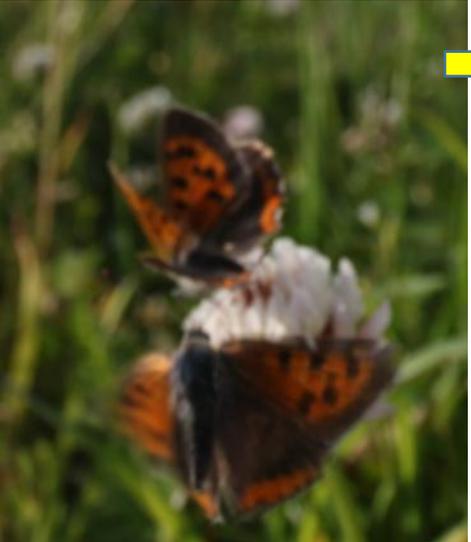
↑①前回の辺りを探し、
葉柄摂食中発見。
アリが近辺にいる。
(写ってはいない)

②撮影のため押さえた
枝をはずしてしまい、
振動で幼虫が落ちた→
元にもどした(笑)。



観察できた蝶①(ベニシジミ)

複数の箇所で見えた蝶たちを観察できた。



①吸蜜中の♀(奥)に♂が飛んでくる

②♂が求愛?

③♀(奥)は翅を開く

④♀翅を閉じる

↑⑤♀が茎を下り始め

⑥ストップ→→→
上の♂は吸蜜していない
(ここまで17秒)

⑦両者フリーズ。
13秒後♂は吸蜜していた。その後両者飛び去る。



6/10夷王山17:10
♂の求愛?に、♀は吸蜜をやめ、逃げた?

ベニシジミ♂の執拗な求愛はよく見るが、何となく中途半端?に感じた。

6/11江差
この時期の美しいベニシジミ♀が頻りに産卵をしていた。
↓



観察できた蝶②(コキマダラセセリ)



↑6/10厚沢部

この時期コキマ幼虫は乱雑な巣を作る。上写真は少し前までヒメジャがいたスゲ。下はススキ。

↓6/11江差公園



観察できた蝶③(ツマキチョウ)

6/11厚沢部:5月に来た時、発生最盛期だったが、この時期にも♀が残り、産卵をしていた。



忠類

6/13

様似でアポイ調査(永盛氏に詳しいので参照してください)の翌日、カラフトヒョウモンを探しに、忠類方面に行った。(辻は見る事ができなかった) 飛んでいた蝶をいくつか。



コチャバネセセリ♀



ツバメシジミ♀(青斑発達型)



↓(♀) ヒメウスバシロチョウ (♂)↑



シロオビヒメヒカゲ♀



カバイロシジミ♀





↑終齢の巢

↑巢の中を見ると終齢の顔

巢を開くとキレイな幼虫↓

特徴的な顔↓

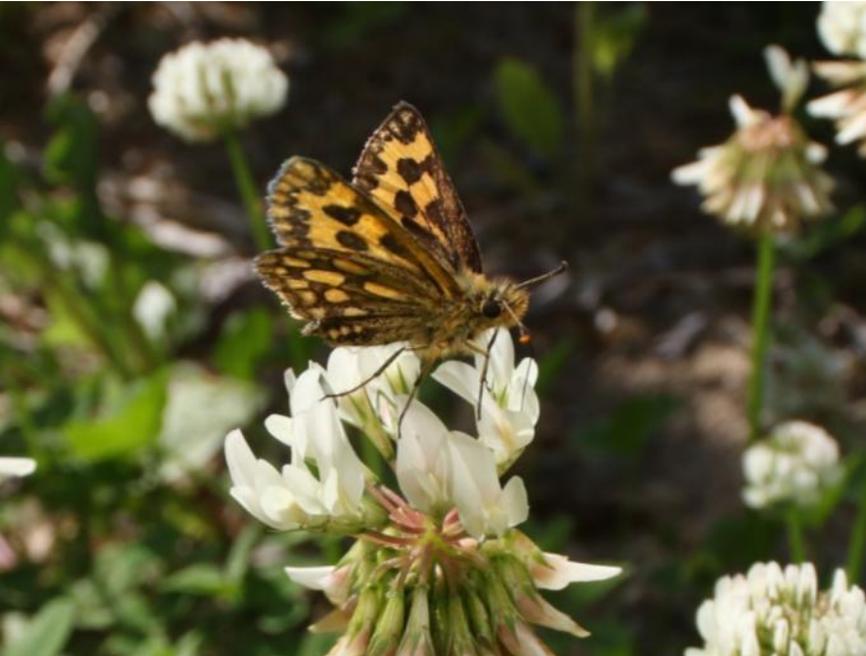


↑付近の伐採地を見に行ってみた。来年良さそう？
↓別の地点。ミズナラを見下ろせ、ゼフの季節来てみたい。

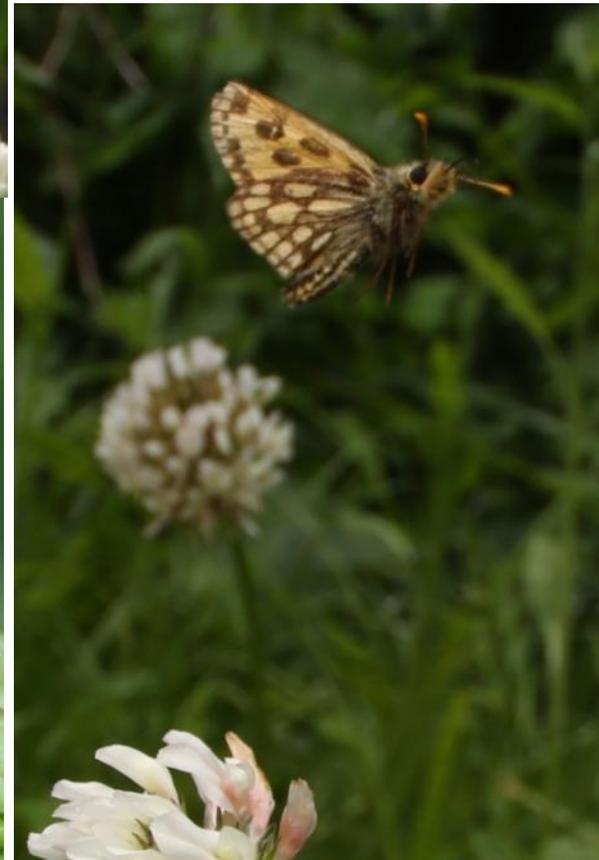


観察できた蝶④(カラフトタカネキマダラセセリ)

アポイでは見られなかったが、忠類と翌日行った日高の林道で頻りに新鮮なカラタカを見ることができた。



6/13 忠類
←(上)♀一度だけ産卵姿勢を目撃したが、撮影できなかった。
←(下)♂翅を開くととても美しい。
↓シロツメクサを飛び回りながら吸蜜する♂。



6/14
日高林道
コンロンソウで吸蜜する♂→



翅を開きながら吸蜜する新鮮な♂
→→→



観察できた蝶⑤(ミスジチョウ)

6/14日高

ツマジロウラジャノメ・ウラジャノメ・ベニヒカゲ各幼虫が目的だったが、何も見つからない。タイムアップ?と、目の前にカエデ。そういえば昨年ミスジがいたな・・・

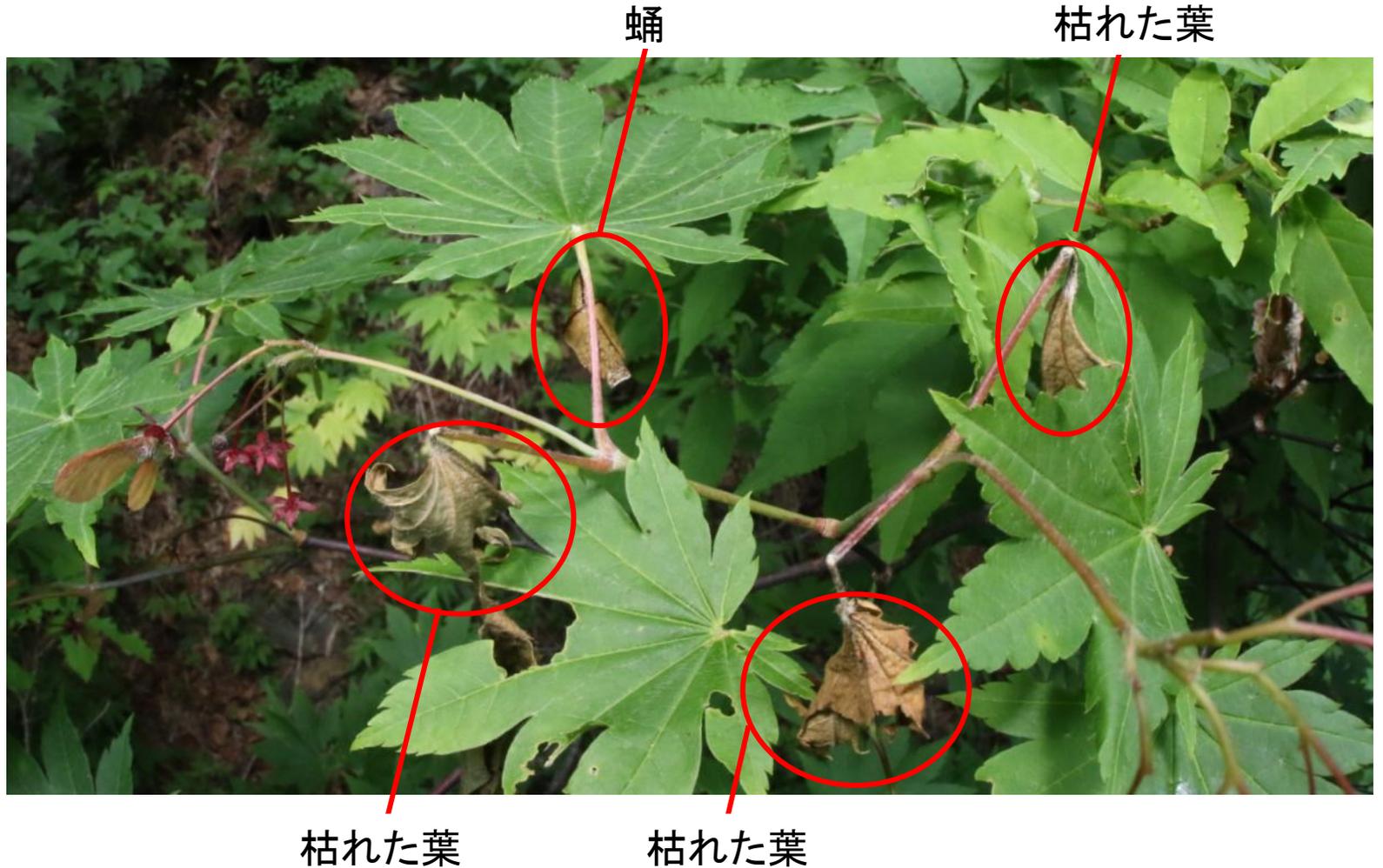
1:越冬巣はどこだ?と。あった。枯れた葉が緑の新葉中にある。



2:他にも何枚も枯れた葉が・・・見ていると突然！
蛹が目に飛び込んできた！



3:鳥の目になったつもりで、上から撮影してみると、枯葉がたくさん。

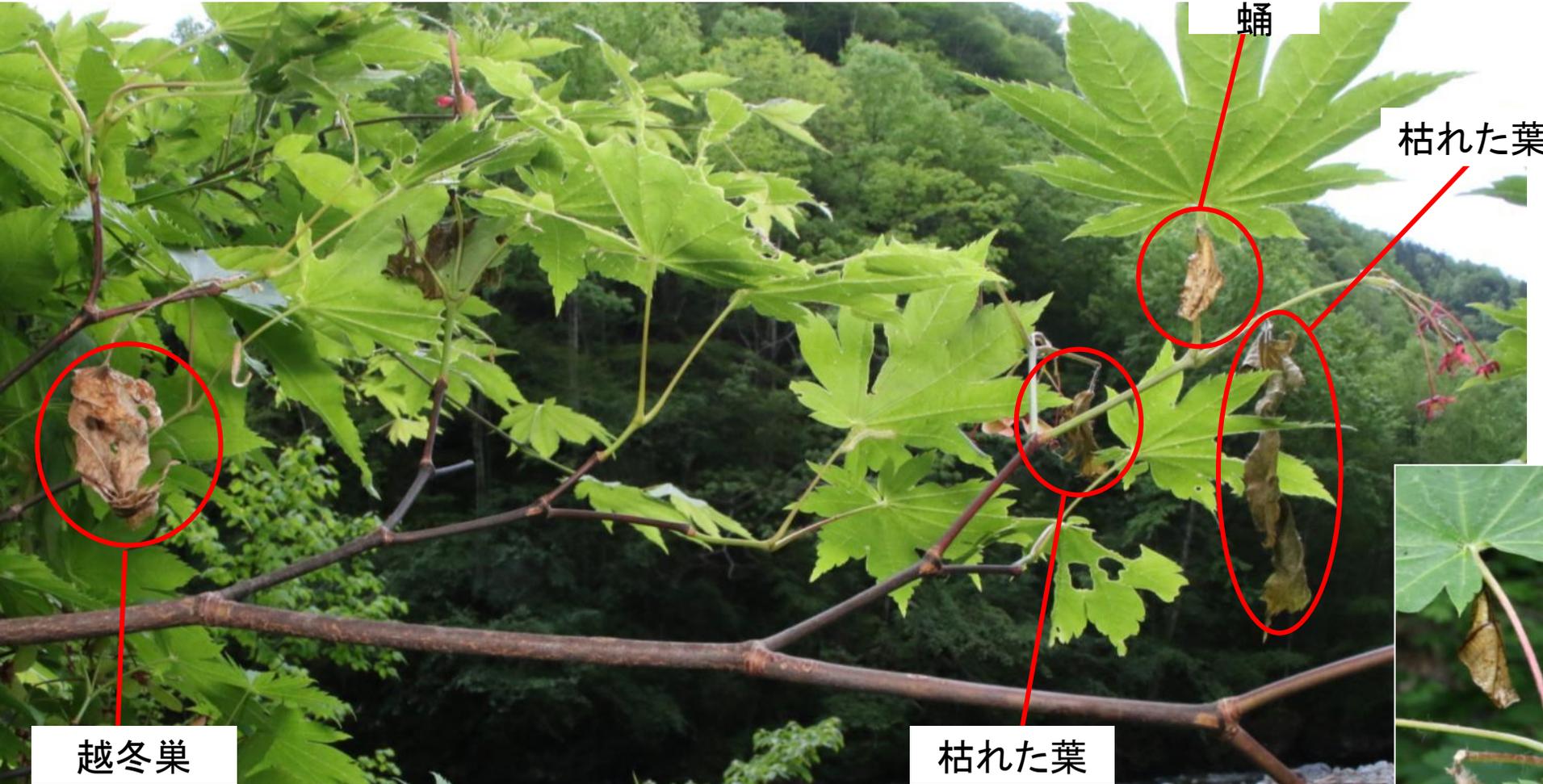


4:鳥の目ではこのように見えるのだろうか?ただ改めて見ると、不自然にも思えるが・・・

観察できた蝶⑤(ミスジチョウ)

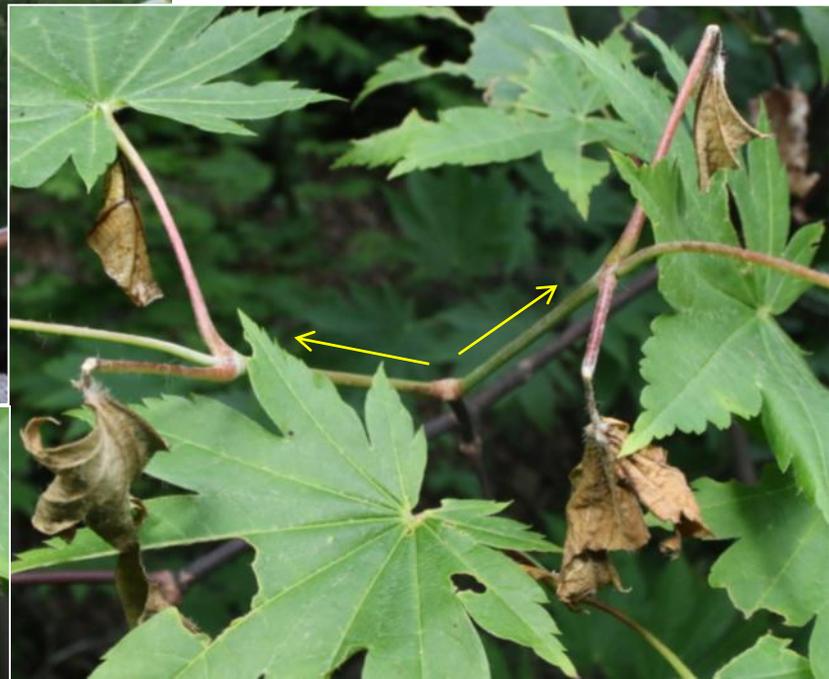
なるほど、自分を隠すために周りを枯葉でカムフラージュしているんだ～

1:逆に木の下から上を見ても↓



3:↑背側から見た蛹。近くをアリが通るとしきりに体を揺らしていた。(撮影できず残念!)

2:枯葉をよく見る(右写真)と、噛み跡(赤○)があり「枯らせているんだ!」とわかる。また、よくよく見るとV字に二本出た茎(黄色)から対生に出た葉が各々枯れていて、そのうち一枚だけ(左上)は緑。その下で自分が枯葉色の蛹になっている→



安平

忠類のオオチャバネで気をよくしたので、安平でも再び！以前、この場所で越冬前に多数、越冬後にも数頭発見したことがあり、蛹まで追いたいが...

6/14



↑三年前の大地震までは必ず訪れていた林道。道が引き裂かれている。オオチャバネは見つからなかった。
←「これは！？」と見るがいつものガ。

6/15



翌日場所を変えてリンゴシジミを見に行った。数頭見ることができたが、撮影はこれのみ。

苫小牧

6/15



昨年大発生していたゴイシシジミを見に行くも見られず。ササの葉は緑が美しかった。



観察できた蝶⑥(ジャノメチョウ)

6/9 美々 20:30-21:30

ジャノメチョウの幼虫は様々な植物を食べている。摂食している植物を採取し、同定してみたいと考えていた。各地で夜間摂食を観察してみた。ここで食べていたのは「オオスズメノカタビラ？ネズミムギ？カモガヤ？」？



盛夏にジャノメがたくさんいる夷王山で暗くなるのを待つ。ここはススキがたくさんあり、まだ見たことのないススキ摂食も狙いのひとつ。夕暮れが近づくと、縄張りの主張か、距離をとったシカがこちらを向き、ずっと鳴いていた。



←花は咲いていなかったが、チガヤかと。



→
スゲを摂食中。
花がなく同定できず。



↑ススキ摂食？と喜ぶ。撮影しようとカメラを構えるが、風がありなかなかできない。その時突然の強風。ちょうど移動中の別な植物に乗り移ってしまう。その後食痕のついた葉を探すも見つからず、ススキ摂食を確かめることができなかった。



↑日が長くなり、まだ明るい山の上から見る江差方面。(19:22)



→
細いイネ科を歩行中を発見。摂食中ではなかった。

やはり盛夏にベニヒカゲがたくさん飛んでいる幌満峡。アポイ岳調査の夜版として行ってみたが見当たらない。戻る途中ふと、「車を流しながらドアの窓から懐中電灯を照らして探しては？」と思いつく。電波も届かない真っ暗な林道も何となく安心して見ていける。



←最初に発見した幼虫。



ここで食べていたのは「オニウシノケグサ」？

幼虫を見つけ(エンジンかけたまま)車を止めるとヘッドライトの影響か、幼虫がぎこちなく体を反転させて下りようとしてしまう、今回の写真は全て下を向いている。↓

↑今回は食べていた植物を全て採取するので、幼虫に触れて落とす。幼虫を触っているとこのように丸くなった。

←撮影中ヘッドライトに向かってガが飛び込んでくる。オオミズアオだった。



↑幼虫が下がる途中、手が触れて落ちた幼虫。このようなまま硬直している。

回りの異変に気づき下がる幼虫→(別の葉への移動がわかる)その後、自ら落ち、しばらくすると歩き始め、土くれの下に隠れてしまった。



最終日前夜遅く、美々到着。もう遅いので幼虫が下りているかも、という中、もう一度見てみた。
幌満峡のように車の窓から探索。撮影中に、食草の花の撮影も思いついた。
しまった、当初から行うべきだった。



↑この様に花も撮影してみた。
しかし、この花は採取できておらず、
次回同定してみたい。

これも採取できていない→
「ナガハグサ」か
「オオスズメノカタビラ」か？



初夏の北海道でした

次回は、七月。

最後のジャノメの食草同定は、まだまだ未定。
とりあえず、次回も花を集めたい。

また、ヒメチャ作業のお手伝いもしながら、次回の北海道行き、
進めていきたい。